

自 己 評 価 票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4 理念を实践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入年月日	平成 21 年 12 月 6 日
法 人 名	有限会社 ハル
代表者名	中野裕勝
事業所番号	2 7 7 2 4 0 1 2 9 5 2
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名称	グループホーム はる
記入者名	東 和代
所 在 地	枚方市船橋本町2-85-7
電話番号	0 7 2 - 8 5 6 - 3 0 2 1
F A X 番号	0 7 2 - 8 5 1 - 2 1 2 1

自己評価票

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心のバリアフリーをめざして」を理念に、認知症を持つ特性を理解し、運営方針とする		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲示している		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には「はるだより」を送付している。地域への理解は、自治会長を通じて理解に努めている		
2 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	管理者、職員は隣近所の方と、挨拶を交わす等のコミュニケーションにつとめている	○	自治会回覧版を持って行く等の、ご近所とのつながりに努めている
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事は入居者の状態に合わせ、参加交流に努めている。又施設長夫婦がホームとして自治会活動等に参加、交流に努めている		自治会長からも、自治会の方に理解をしてもらえるように協力してもらっている
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで自治会長・包括センター所長などに、情報・協力など求め話し合いを持っている		自治会行事、敬老会などではご近所の高齢者の方の送迎など、お手伝いをさせてもらっている
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1～2回のミーティングを行い、理解を深め改善に取り組んでいる		
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議で状況報告を行い、自治会長・包括支援センター所長に、意見・情報を頂いている		
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の窓口・在宅支援事業所・老健・病院などにパンフレット持参、説明を行っている		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	一部職員の学習で、留まっている	○	研修の機会を持ち、知識向上に努めたい

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ研修により、職員の意識を高めるように努めている	○	

4 理念を実践するための体制

12	○ 契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	重要事項説明に記載し、入居前、退所時には充分説明を行い、理解をして頂けるように努めている		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の相談員の訪問により、入居者の方と個別に面談をしてもらい、情報・助言を運営に反映させている		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族の来所時に、入居者の心身の状況や日頃の様子を伝えている。来所の難しいご家族に、電話で伝えるように努めている		毎月「はるだより」を送付。医療機関の利用予定、結果報告を行い、担当によるコメントを入れている
15	○ 運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に必要に応じて時間を取り、面談を行い、家族とのコミュニケーションを図るようにしている		玄関には御意見箱を設置
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや月1～2回のスタッフ会議で、職員の意見を聞き、考えを出し合い改善に努める	○	職員の意見や提案が出せるように、職員同士のコミュニケーションに努めたい
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	その時々状況に応じて、勤務の変更など、出来る限り調整を行い対応している		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はないが、現在は利用者さんの高齢化により、日常業務が多様でハードになっている。その日の勤務スタッフ同士で、時間内に完了できる様に努めている		

5 人材の育成と支援

19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修案内を伝え、公平に受けてもらえるようし、課題に取り組んでもらえるように努めている	○	研修案内を伝え、勤務調整などの配慮をするように努めている。研修機会を増やしていきたい
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の同業者の定例会議等に参加し、情報交換などにて、サービス向上に努めている		

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる	月1～2回のミーティングにて、職員の日頃の介護に対する悩み・課題を聞き取り把握出来るように努めている	○	職員同士のコミュニケーションを図り、明るく業務が出来る雰囲気になりたい
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個性を大切にし、特技などを生かせるように努めている	○	施設長・管理者・ホーム長が職員の状況を把握し、問題点を改善できる様に努めたい

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族からの相談を受けた場合は、面談・聞き取りを行い、状況を把握し、ご本人の見学を勧める		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	電話や訪問による相談は随時、対応している		
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネの方から情報提供を行い、サービスに必要な支援を考え、担当者の意見・考え等も検討しながら、支援を考えるように努めている		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	サービス提供は、家族の要望や、ご本人の要望、気持ちの聞き取りが出来る方には、話し合える雰囲気を作るように努めている	○	ご本人の気持ちを一番に考え家族さんに伝えて話し合いサービス提供を考えるように努める

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人のそばに寄り添い、傾聴し、歩んできた人生を共に振り返る	○	ご本人の思いを大切に支えていけるように努めたい
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを大事にして、思いを受け止めるよう努めて行きたい	○	ご本人の思いを受け止め、一緒に共感できるように努めたい
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来るだけ月1回は来所してもらえ様に働きかけ、ご本人と一緒に過ごしてもらえようように願っている	○	来所出来ないご家族には、電話にて対応に努める
30	○ 馴染みの人や場所との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙などはご本人に渡し読んでもらい、連絡があった場合にはお伝えするか、ご本人に取り次ぐようにしている		

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	現状は入居者さんの介護度が高く、いかにご本人が辛い嫌な思いをしないで共同生活を保ち、日々穏やかに過ごしてもらえるように努めている	○	職員が入居者さんの状況を把握し、レクリエーション・作業を考えるように努めている
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、ご家族からの相談があった場合は対応する		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言動・感情・表情などをしっかり受け止め、その時の状況にあった支援に努めている		
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供により、ご本人の生活歴を把握し、思いを受け止めるように努める		
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の状況に合わせて生活リハビリ、体操などを行い残存能力を保つように支援している	○	本人の個性を把握し、穏やかに落ち着いて過ごせるように努めていきたい

2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望、気持ちを職員が把握し、ご家族が来所時に伝え、ご家族の意見を聞き取り作成している		職員の意見・提案はご家族に伝え、了解のもと支援に努める
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、状況変化に応じ、担当職員とも相談の上、随時見直しを行い、ご家族に職員が説明を行う		状況をわかりやすく説明し、理解してもらえるように努める
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・チェックシートなどを作成し、介護計画の見直しができるようにしている		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族、ご本人の状況を踏まえた上で、対応の出来る範囲で支援を行っている。出来る限りの要望に添えるように努めている		
----	--	--	--	--

4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	自治会行事に出来るだけ参加し、地区の中学福祉体験の受け入れ、体操ボランティア(月1回)による歌・体操を行っている		入居者の状況から自治会行事は、本人が負担にならない個別対応にての参加にしている
----	--	--	--	---

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	週に1～2回のデイ・ケアを利用している		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて、地域包括支援センターの所長に協力を頂いている		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として、総合病院と提携している。その他、心療内科の定期受診週1回、歯科往診など利用している		ご家族又はご本人の指定病院への受診支援も可能な限り行う
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	医療機関と連携を密にしている		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は週1日勤務し随時連絡を取り、意見・指示を仰ぐ。往診時は看護師が同席にて、医師に日常の状況を報告・相談を行う		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に至るまでの心身の状況の変化を踏まえて、ご家族と事前に意思確認を行っている		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、ご家族、職員とでカンファレンスを行い、今後の方針を話し合いをして決めている。延命治療に関してご家族の希望は書面にして同意書を頂いている		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	医療機関との連携をはかり、カンファレンスを行い、出来る限りご家族が納得した上で、今後の方針をご本人の意志も踏まえて、決めるように努めている	○	終末期の医療ケアについては十分に検討しているが、そこまでの取り組み・準備には至っていない
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族との話し合いを行い、本人の状況説明を行う		

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	---------------------------------	--------	----------------------------------

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録・書類は事務所に保管、管理している		
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	ご本人に寄り添い、思いを聞き取り、出来る限りの生活支援に努めている		
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況に合わせ、無理な支援はせず、安心してゆったりと過ごしてもらえるように努めている		

(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室に出かけ、個々に合ったカットを行い、行けない方は訪問にて行う。服装などは、出来るだけ好みの物を着てもらうようにしている		買い物にお連れして、自分で選んでもらえる様に努めている
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理などの準備は難しくなっている為、片付けの出来る方には片付けをしてもらっている。食事は出来るだけ季節感を感じてもらえるように努めている		
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	希望を聞き、好みのおやつを用意したり、夕食のメニューによっては、ビールを提供するなど、出来るだけ要望に応えるように努めている		
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	排泄状態をチェックシートで確認できるようにし、時間誘導にて不快感のない様に努めている		季節により、夏はリパンを使用の調節を行っている
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の午前中入浴になっている。健康状態にてご本人の不安による拒否がある方には、医師に相談・指示をもらい週1回の方もいる		浴室改装により浴槽に浸かれない方は、シャワーチェアにて対応している
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	その日の状況に応じて居室の休憩をしてもらったり、居室から出られない時はカーテンを開け、外の景色を眺めてもらっている		

(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るだけ好きな事、得意な事を楽しんでもらって精神安定を図り、日々楽しく過ごしてもらえる様に努めている		
----	--	---	--	--

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	金銭管理の出来る方が、入居時ご家族の同意のもとに自己責任において所持する事を書面にサインしてもらい、使えるように支援している	○	郵便局での出金の申し出があった時は、職員が同行、もしくは代行にて行い、明確に出来るよう記録に残す
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時の状況に合わせ、外出の機会をつくるように努めている		
62	○ 普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別対応にての外出行事を行っている。又、GHの記念行や・秋の外出行事にはご家族に案内を出し、出来るだけ参加してもらえようように働きかけている		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	ご本人の要望に応じて対応している。携帯電話所持の方には、ご家族と相談の上で使用してもらっている		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来所時は居室でゆっくり過ごしてもらいまた、一緒に散歩や食事をしてもらえるように努めている		

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をおこなっている。又その意義を正しく認識している。現在、やむを得ず安全確保の為に拘束を行っている状況があり、この事に関しては、ご家族に状況説明を行い、理解・納得の上で同意書を頂いている		状況の見直しを行い、状況に合わせて対応している。その都度、ご家族に報告を行う
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、安全確保の為に、職員が見守りの可能時は施錠はしていない時間帯もある。玄関にはチャイムを設置している。		
67	○ 利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状況を把握し、安全確保に努めている		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の能力に合わせて判断し、見守りにて安全確保に努めている		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のために、常に意識を持って取り組んでいる	○	事故再発防止委員会をつくり事故時の状況、問題点、今後の対応などを話し合い、再発を防ぐように努める
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している	○	定期的な訓練が出来ていないので、行うように努めたい

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練（シュミレーション）を実施している。マニュアルも作成している		
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況変化により、その都度ご家族に伝えている		

(5) その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療機関受診・結果などは、必ず記録に残し確認できるようにしている		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	処方された薬は処方箋を個別にファイルにして、確認出来るようにしている		
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックシートを確認の上、医師に指導を受け、看護師に確認の上で、服薬又は浣腸を使い、便秘を防いでいる	○	出来るだけ、薬に頼らず、食事・運動などのバランス良く出来るよう課題としている
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	食事前の手洗い、食後の口腔ケアは見守り・介助にて行い、入れ歯は夕食後は、はずして薬用液に朝まで預かる		週1回歯科往診にて医師に相談するなど指導を受けている
77	○ 栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは同じで、食事形態は個別対応にしている。出来るだけ食べて頂ける状態にするように配慮している。食材によるアレルギーのある方にも気をつけ、配慮している	○	現在はきざみ・ミキサーの形態で食べている方がいるのでミキサーの方の味付けには特に気をつけるよう努めている
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ・疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアル、ノロウイルス等の感染症に関する情報資料を、ファイルにしている		インフルエンザ予防接種・肺炎予防接種は行っている
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に漂白・消毒を行っている。食材の保存状態・賞味期限などチェックしている		衛生管理表については、确实に行えるよう検討中

2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関フローアに長椅子を置き、腰を掛けられるようにし、玄関周りには花を植えてくつろいでもらえるようにしている		
----	---	---	--	--

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所、浴室、トイレを改装して、車椅子対応が出来るようにしている。壁には季節感のある飾りにて、雰囲気造りに努めている		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関フローには長椅子を置き、腰掛けてもらえるようにした。居間には籐の椅子を2脚置いている	○	ソファを失くし、車椅子の方も方もくつろげるようにして、スペースが広くなった
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の状況に合わせ、要望の物は出来るだけ受け入れるようにし、ご家族とも相談の上で、落ち着けるお部屋になるように努める		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	職員で空調調節を行っている。天気の良い日は出来るだけ窓を開け、外気を入れている		

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○ 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	洗面所、浴室、トイレ一部改装を行い、車椅子対応が出来るようになった。浴室にはチェアシャワーを設置している		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の持ち物には、全て氏名を記入している		
87	○ 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口に肘掛椅子を置き、外気浴を楽しんでもらう。現状洗濯干し場に於ての洗濯干しが厳しい為、出来ていない事が多く、活動が減っている	○	支援できるように、改善が必要の為検討中

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2／3くらいと ③ 家族の1／3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2／3くらいが ③ 職員の1／3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2／3くらいが ③ 家族等の1／3くらいが ④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい)

家庭的雰囲気の中で日常生活において高齢化に伴う介助が増え、今までの支援が出来なくなっている事が多く、その状況の中で個々の癒し・楽しみを持って頂ける、環境造りに努めている。また施設内の設備の改善として、浴室・洗面所・トイレの一部改装を行い、車椅子対応の出来る設備に改善しました。日々、安全で健康に過ごして頂けるように努めたいと思います。職員には利用者さんの状況にしっかりと向き合い、ゆとりをもった介護が出来たらと思います